

科目名	ファミリー ガバナンス論特講	担当者	シナト 階戸 テルオ 照雄	期間	通年	単位数	4
-----	-------------------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本科目では、ファミリー企業のガバナンスにつき、海外の豊富な具体的な企業ケース・スタディも交えて、考察してゆくことで、以下の能力を習得することを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>III. さまざまな人々とのコミュニケーションを通じて他者との信頼関係を確立し、ときに強い影響を与えることができる。</p> <p>IV. 団体の活動において、より良い成果を上げるために、他社と協働し、作業を行うとともに、指導者として他社の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 経営者が会社経営において適切な意思決定を行うために、経営戦略の基礎から応用までの知識を修得することを一般目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 企業を巡るファミリーガバナンス論はもとより、諸理論や経営課題について把握し、その中で個別企業がとっている行動の背景を理解・概観できるようになることである。</p>		
学修方法	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> manaba folio を利用して、教員と院生との間での双方向を重視した個別指導を実施する。 manaba folio の掲示板や相互ディスカッションを利用して、受講者同士の協働学習を行う。 図書館、インターネット等で自ら論文検索して、レポートを作成する。 <p>【学修方略 (LS)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本図書・教材の十分な理解、参考文献の検索と適切な理解、レポート作成、受講者同士のディスカッション、あるいは複数回にわたって行われるレポート添削での教員と受講生によるディスカッションによりレポートの最終稿を完成させる。 <p>【学修時間】</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の学修：20 時間 レポート執筆：10 時間 レポート推敲と最終稿の完成（教員の添削指導等を含む）：15 時間 		
スケジュール	<p><前期> ・レポート課題1 初稿締切期限：6 月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める提出期限 ・レポート課題2 初稿締切期限：8 月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める提出期限</p> <p><後期> ・レポート課題1 初稿締切期限：10 月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める提出期限 ・レポート課題2 初稿締切期限：12 月末 ★最終稿提出期限=学事暦に定める提出期限</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容を十分理解・修得し、レポートが作成されているかを基準とする（論旨明確さ、独創性、文章表現の妥当性、引用の適切性等）。
	観察記録	20%	初稿段階から最終稿までのプロセスを含む取組みを評価基準とする。
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 初稿の提出は締め切りを遵守すること。 経営関連科目の基礎の理解が前提のため、経営関連科目との同時履修が好ましい。また、他のファミリービジネス関連科目の履修も望ましいのは言うまでもない。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 階戸照雄、加藤孝治 教材名： 「ファミリーガバナンススムーズは事業承継を進めるために」 ISBN：978-4-50-2344718 2,450円＋税
	前期はファミリー企業の現状と課題につき、理解を深めることに重点を置く。このため、データ・理論面だけではなく、実際のファミリー企業像が得られるよう、具体的な企業についての知識を得るように努める。
参考図書	ジョン・A・デーヴィス他『オーナー経営の存続と継承』（流通科学大学出版，1999年） ISBN:978-4-94-774630-6 2,800円＋税 全国社外取締役ネットワーク編著『〈社外取締役〉のすべて』（東洋経済新報社，2004年） ISBN:978-4-49-255514-9 1,800円＋税 ファミリービジネス学会編、奥村昭博・加護野忠雄編著、階戸照雄他著『日本のファミリービジネス—その永続性を探る—』（中央経済社，2016年） ISBN:978-4-502-19011-7 2,400円＋税
履修上のポイント	1. ファミリー企業の定義から、その実態までの数々のデータを基に、理解を深める。 2. 一般的な企業とファミリー企業の経営課題の違いを十分理解する。 3. 一般的な企業と比較して、ファミリー企業のガバナンスの問題点を考える。
レポート課題 1	ファミリー企業成功の条件を述べよ。 留意点： 1社以上の具体例を説明すること。
レポート課題 2	ファミリー企業における、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の必要性につき、説明せよ。 留意点： 1社以上の具体例を含めること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： ランデル・カーロック，ジョン・ワード（訳者）階戸照雄 教材名： 『ファミリービジネス 最良の法則』（ファーストプレス社，2015年） ISBN:978-4-90-433681-6 3,800円＋税
	後期は、前期で習得した知識をベースにして、基本教材（『ファミリービジネス 最良の法則』）で広範囲に扱われている、ファミリーガバナンスを中心に知識を深めていく。本書は優れた実務的な経験を踏まえた理論書であり、深い理解が望まれる。
参考図書	倉科敏材編著『オーナー企業の経営』（中央経済社，2008年） ISBN:978-4-50-266160-0 2,600円＋税
履修上のポイント	1. 欧米のファミリー企業の現状につき、知識を得る。 2. 日本のファミリー企業と欧米のファミリー企業の経営課題の違いを理解する。 3. 公開企業（非ファミリー企業）のコーポレート・ガバナンス（企業統治）の問題点を理解する。 4. ファミリー企業のガバナンスの問題点を理解する。
レポート課題 1	ファミリーガバナンスとコーポレート・ガバナンスの違いにつき、説明せよ。 留意点： 1社以上の具体例を含めること。
レポート課題 2	ファミリーガバナンス実現のための条件を述べよ。 留意点： 1社以上の具体例を説明すること。

基本教材 1

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（第 1 章）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（第 2 章）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（第 3 章）
第 4 回	教材に基づく学修④（第 4 章）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（第 5 章）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（第 6 章）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（第 7 章）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（第 8 章）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（第 9 章）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（終章）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する

基本教材 2

第 1 回	「学ぶべき課題」について全体的な理解をし、教材に基づく学修①（なぜファミリービジネスは悪戦苦勞しているのか）を行う
第 2 回	「学修の進め方」について教員と意見交換し理解し、教材に基づく学修②（ファミリー計画と事業計画の策定を同時進行させる）を行う
第 3 回	教材に基づく学修③（ファミリーの価値観と企業文化）
第 4 回	教材に基づく学修④（ファミリーとビジネスのビジョン：ファミリーのコミットメントを探る）
第 5 回	教材に基づく学修⑤（ファミリーの戦略：ファミリーの参加に関するプランニング）
第 6 回	教材に基づく学修⑥（ビジネス戦略：会社の将来の計画）及び「学修の進捗状況」を教員と共有する
第 7 回	教材に基づく学修⑦（ファミリービジネスを成功へと導くための投資）
第 8 回	教材に基づく学修⑧（ファミリービジネス・ガバナンスと取締役会の役割）
第 9 回	教材に基づく学修⑨（ファミリー・ガバナンス：ファミリー集会和ファミリー協定）
第 10 回	教材に基づく学修⑩（木を植える人々）
第 11 回	レポート課題 1・レポート課題 2 について考察した内容をまとめ、初稿を提出する
第 12 回	レポート課題 1 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 13 回	レポート課題 2 に係る教員からの指摘事項を受け、それに基づき内容を再検討する
第 14 回	レポート課題 1・レポート課題 2 の問いに係る全体的な把握を深める
第 15 回	レポート課題 1・レポート課題 2 に関する自らの考えを教員と共有し最終レポートを提出する